東
日本

アシスト ソリューション研究会
2027年度 分科会募集テーマ

● 募集要項／参加申込はこちらから！
https://www.ashisuto.co.jp/solution-studygroup/workgroups-apply/
一次締切 ： 2027年1月29日（金）
二次締切 ： 2027年2月19日（金）

分科会テーマ	対象	開催概要	活動ポイント
情シス戦略			
AI時代の情シスの役割と在り方	● 情報システム部門のこれからの役割や価値に興味のある方 ● 情報システム部門の人材・組織の在り方を考えている方	AIの進化に伴い、企業の様々な部門でAIの活用が広がる一方で、情報システム部門には従来のシステム維持・運用にとどまらず、全社的な業務や事業の変革を牽引・支援する新たな役割が求められています。しかし、こうした環境変化の中で情報システム部門がどのような価値を生み出すべきか、そのためにどのような人材や組織が必要なのかは、まだ明確になっていません。 本分科会では、AI時代における情報システム部門の役割を捉え直し、経営・事業部門との関係や、これから求められる人材・組織の在り方を研究します。	・AI時代における情報システム部門の役割・価値 ・求められる人材・スキル・組織 ・経営・事業部門との関係と価値の伝え方
開発／運用			
AIによる自律運用の探求	● システム運用・保守の自動化や高度化に関心のある方 ● AIに運用業務を任せる可能性を検討している方	システム運用では、監視や障害対応など様々な業務の自動化が進んでいます。AIの活用が進めば、従来は人が判断していた運用業務までAIに任せられるようになる可能性があります。一方で、AIにどこまで任せてよいのか、人はどのような場面で判断・介入すべきなのか、新たな課題も生まれます。 本分科会では、システム運用をAIにどこまで任せられるのか、AIでの自律運用を前提としたとき運用はどう変わるかを検討し、自律的な運用に必要な仕組みを研究します。	・AIに任せられる運用業務と実現可能性 ・AIと人が担う判断・対応の整理 ・自律運用に必要なルール、ポリシー
データ活用			
これからのデータ整備と活用	● データ活用を推進する立場の方 ● DX・AI推進におけるデータ整備に関心のある方	生成AIをはじめとするデータ活用技術の進展により、従来の数字データに加え、各種ログや資料など様々なデータが業務の成果につながる可能性が広がっています。そのためには、必要なデータを集めるだけでなく、その意味や定義、関係性を明確にし、目的に応じて正しく参照・活用できる状態に整備することが重要です。 本分科会では、非構造化データを含む多様なデータを対象に、成果につながるデータ整備と活用の在り方を検討します。データの意味や品質を担保するための整備方法、整備したデータを業務上の判断や課題解決に活かす方法などを探ります。	・生成AIが正しく情報を参照・理解するためのデータ整備 ・データの意味・定義・関係性を整える方法 ・AIを活用したデータ整備・品質管理の効率化

※具体的な研究内容や焦点は、分科会でご検討いただきます

東
日本

アシスト ソリューション研究会
2027年度 分科会募集テーマ

● 募集要項／参加申込はこちらから！
https://www.ashisuto.co.jp/solution-studygroup/workgroups-apply/
一次締切 ： 2027年1月29日（金）
二次締切 ： 2027年2月19日（金）

分科会テーマ	対象	開催概要	活動ポイント
セキュリティ			
AIエージェントのガバナンスと セキュリティ対策	● AIエージェントの利用ルールや 管理について検討している方 ● AI活用におけるセキュリティや リスク管理に関心のある方	AIエージェントは、社内データやナレッジを参照するだけでなく、複数のシステムやツールと連携し、自律的に判断・実行する存在になりつつあります。一方で、自律的な判断や実行によって、想定外の動作や誤作動、情報漏えいなどのリスクが生じる懸念もあり、従来のユーザーやシステムを単位とした管理だけでは対応が難しくなる可能性があります。 本分科会では、AIにどこまでの権限を与え、人間が何をどの段階でチェックするのかを考えながら、AIエージェントを企業で安全に活用するためのガバナンスとセキュリティ対策を研究します。	・人間が何をチェック・承認するのか ・AIエージェントの情報・権限・利用を 管理する仕組み ・AIエージェントの自律的処理に伴う リスクの整理
技術探求			
AI駆動開発におけるチェックポイント	● AIを活用したシステム開発に 関心のある方 ● AI駆動開発における品質や 人の役割を考えている方	AIによるコード生成やテスト支援などが広がり、システム開発の進め方そのものが変わりつつあります。小規模なシステムではバイブコーディングなど従来とは異なるアプローチでの開発も行われている一方で、無駄なコードの生成、コードの盗用、勝手な仕様変更など、AIによる開発の問題も報告されています。AIに任せる範囲が広がるほど、生成された成果物をどこで、どのように確認するのかという新たな課題が生まれます。 本分科会では、AIを活用した開発の各工程で、どこまで生産性を高められるのかを考えるとともに、品質を確保するために人が確認・承認すべきチェックポイントを研究し、AIと人が協働する開発プロセスの在り方を探ります。	・開発工程へのAI活用と生産性向上 ・AIに任せる工程と人が確認するポイント ・AI駆動開発の品質を確保する仕組み

※具体的な研究内容や焦点は、分科会でご検討いただきます

東
日本

アシスト ソリューション研究会
2027年度 分科会募集テーマ

● 募集要項／参加申込はこちらから！
https://www.ashisuto.co.jp/solution-studygroup/workgroups-apply/
一次締切 ： 2027年1月29日（金）
二次締切 ： 2027年2月19日（金）

分科会テーマ	対象	開催概要	活動ポイント
組織／人材			
企業全体でAIを活用する仕組みづくり	● 全社でのAI活用を推進する立場の方 ● AI活用に向けた人材育成や組織づくりに関心のある方	生成AIの活用が企業内外で広がる中で、AIを積極的に使う社員とそうでない社員の格差や、利用実態と業務への貢献度の把握、利用拡大とトークン費用のバランスなど、様々な課題が生まれています。AIを一部の人の利用や無秩序な利用から、企業全体の業務や価値創出につながる利用に変えるには、どのような仕組みが必要なのでしょうか。 本分科会では、人材育成や利用促進、成功事例の共有などに加え、トップダウン、ボトムアップ、全体最適、部分最適など様々なアプローチを検討し、全社でAI活用を広げ、定着させるための仕組みや推進体制を考えます。	・AIを使う人・使わない人の社内格差と要因 ・トップダウン／ボトムアップなどの活用推進アプローチ ・AI活用の統制とコストを含めた全体最適
AIエージェントを活用した業務プロセス再設計	● AIエージェントを業務に活用する方法を検討している方 ● 全社に影響する業務改革に関心のある方	AIエージェントは、質問に答えるだけでなく、複数の作業をつなぎながら業務を進めることが可能になりつつあります。このようなAIを業務に組み込む場合、既存の業務をそのまま自動化するだけでなく、業務プロセスそのものを見直す必要があるのではないでしょうか？ 本分科会では、AIエージェントを前提とした業務プロセスの再設計について研究します。AIに任せる業務と人が担う判断・確認などを整理し、これからの業務の在り方を考えます。	・AIエージェントを組み込んだ業務プロセス ・AIに任せる業務と人が担う判断・確認 ・AIエージェント時代の業務の在り方

※具体的な研究内容や焦点は、分科会でご検討いただきます

中
日本

アシスト ソリューション研究会
2027年度 分科会募集テーマ

● 募集要項／参加申込はこちらから！
https://www.ashisuto.co.jp/solution-studygroup/workgroups-apply/
一次締切 ： 2027年1月29日（金）
二次締切 ： 2027年2月19日（金）

分科会テーマ	対象	開催概要	活動ポイント
開発／運用			
AIによる自律運用の探求 （監視、異常検知、障害対応 等）	● システム運用・保守の自動化や高度化に関心のある方 ● AIに運用業務を任せる可能性を検討している方 ● 監視、異常検知、障害対応などの運用課題を題材に研究したい方	システム運用では、監視や障害対応などさまざまな業務の自動化が進んでいます。AIの活用が進めば、これまで人が判断していた運用業務までAIに任せられるようになる可能性があります。一方で、AIにどこまで任せてよいのか、人はどのような場面で判断・介入すべきなのか、新たな課題も生まれます。 本分科会では、監視、異常検知、障害対応などの運用課題を題材に、システム運用をAIにどこまで任せられるのか、AIでの自律運用を前提としたとき運用はどう変わるかを検討し、自律的な運用に必要な仕組みを研究します。	・AIに任せられる運用業務と実現可能性 ・AIと人が担う判断・対応の整理 ・自律運用に必要なルール、ポリシー
データ活用			
AIが成果を出すデータ整備	● データ活用、データマネジメントを推進する立場の方 ● DX・AI推進におけるデータ整備に関心のある方 ● 生成AIの回答品質や業務活用の向上を検討している方	生成AIを活用して業務の成果につなげるためには、必要なデータを集めるだけでなく、その意味や定義、関係性を生成AIが正しく理解・参照できる状態にすることが重要です。 本分科会では、業務上の目的や実現したい成果を起点に、どのようなデータをどのような状態に整備し、継続的に維持していくかを研究します。構造化・非構造化データを含め、ハルシネーションを抑制し、生成AIが正しい情報を正しい意味で参照・活用できるデータ整備の在り方を探ります。	・生成AIが正しく情報を参照・理解するためのデータ整備 ・データの意味・定義・関係性を整える方法 ・AIを活用したデータ整備・品質管理の効率化
セキュリティ			
AIエージェントのガバナンスと セキュリティ対策	● AIエージェントの利用ルールや管理について検討している方 ● AI活用におけるセキュリティやリスク管理に関心のある方	AIエージェントは、社内データやナレッジを参照するだけでなく、複数のシステムやツールと連携し、自律的に判断・実行する存在になりつつあります。一方で、自律的な判断や実行によって、想定外の動作や誤作動、情報漏えいなどのリスクが生じる懸念もあり、従来のユーザーやシステムを単位とした管理だけでは対応が難しくなる可能性があります。 本分科会では、AIにどこまでの権限を与え、人間が何をどの段階でチェックするのかを考えながら、AIエージェントを企業で安全に活用するためのガバナンスとセキュリティ対策を研究します。	・人間が何をチェック・承認するのか ・AIエージェントの情報・権限・利用を管理する仕組み ・AIエージェントの自律的処理に伴うリスクの整理

※具体的な研究内容や焦点は、分科会でご検討いただきます

中
日本

アシスト ソリューション研究会
2027年度 分科会募集テーマ

● 募集要項／参加申込はこちらから！
https://www.ashisuto.co.jp/solution-studygroup/workgroups-apply/
一次締切 ： 2027年1月29日（金）
二次締切 ： 2027年2月19日（金）

分科会テーマ	対象	開催概要	活動ポイント
技術探求			
フィジカルAIが変えるものづくりの現場	● 製造業の現場改善に関心のある方 ● ロボット、IoT、センサー、エッジAIの活用を検討している方 ● AI推進、現場と技術部門の橋渡しを担う方	生成AIの進化に加え、センサーやカメラ、ロボットなどとAIを組み合わせ、現実の空間で認識・判断・動作するフィジカルAIへの期待が高まっています。一方で、現場への適用には、業務特性に応じたデータ収集、設備・システムとの接続、安全性、人と機械の役割分担、投資対効果などの課題があります。 本分科会では、製造現場において人手で行っている作業をフィジカルAIに置き換える可能性を整理し、適用可能なユースケース、導入ステップ、効果検証、安全に運用するための仕組みを研究します。	・フィジカルAIの適用が有効な製造現場業務の洗い出し、検討 ・センサー、カメラ、ロボット、エッジAI、業務システムの連携 ・人とAI・ロボットの役割分担、操作・判断・責任の整理
組織／人材			
企業全体でAIを活用する仕組みづくり	● 全社でのAI活用を推進する立場の方 ● AI活用に向けた人材育成や組織づくりに関心のある方	生成AIの活用が企業内外で広がる中で、AIを積極的に使う社員とそうでない社員の格差や、利用実態と業務への貢献度の把握、利用拡大とトークン費用のバランスなど、様々な課題が生まれています。AIを一部の人の利用や無秩序な利用から、企業全体の業務や価値創出につながる利用に変えるには、どのような仕組みが必要なのでしょうか。 本分科会では、人材育成や利用促進、成功事例の共有などに加え、トップダウン、ボトムアップ、全体最適、部分最適など様々なアプローチを検討し、全社でAI活用を広げ、定着させるための仕組みや推進体制を考えます。	・AIを使う人・使わない人の社内格差と要因 ・トップダウン／ボトムアップなどの活用推進アプローチ ・AI活用の統制とコストを含めた全体最適

※具体的な研究内容や焦点は、分科会でご検討いただきます

西
日本

アシスト ソリューション研究会
2027年度 分科会募集テーマ

● 募集要項／参加申込はこちらから！
https://www.ashisuto.co.jp/solution-studygroup/workgroups-apply/
一次締切 ： 2027年1月29日（金）
二次締切 ： 2027年2月19日（金）

分科会テーマ	対象	開催概要	活動ポイント
開発／運用			
AIによる自律運用の探求	● システム運用・保守の自動化や高度化に関心のある方 ● AIに運用業務を任せる可能性を検討している方	システム運用では、監視や障害対応など様々な業務の自動化が進んでいます。AIの活用が進めば、従来は人が判断していた運用業務までAIに任せられるようになる可能性があります。一方で、AIにどこまで任せてよいのか、人はどのような場面で判断・介入すべきなのか、新たな課題も生まれます。 本分科会では、システム運用をAIにどこまで任せられるのか、AIでの自律運用を前提としたとき運用はどう変わるかを検討し、自律的な運用に必要な仕組みを研究します。	・AIに任せられる運用業務と実現可能性 ・AIと人が担う判断・対応の整理 ・自律運用に必要なルール、ポリシー
内製化と外部委託の最適解	● 内製化と外部委託の使い分けを検討している方 ● システム開発・運用の体制、人材、コストを見直している方 ● ベンダーとの関係や委託管理の在り方に課題を感じている方	IT人材確保が年々難しくなる一方、社内に最新技術に対応できる一定のスキルや経験を持つ人材を置き続けることも重要になっています。 本分科会では、開発・運用の効率化やトレンドを踏まえ、社員を中心とした内製化と外部リソース活用のバランスを研究します。また既存のIT業務の枠にとらわれず事業・システムの特性に応じて何を社内に残し、何を外部に委ねるべきかを考え、持続可能な体制と新たな判断の視点を整理・検討します。	・業務・システム特性に応じた内製化／外部委託の判断軸 ・内製化すべきコア領域と外部委託が有効な領域 ・ベンダーとの協働、委託管理、ナレッジ移転の方法

※具体的な研究内容や焦点は、分科会でご検討いただきます

西
日本

アシスト ソリューション研究会
2027年度 分科会募集テーマ

● 募集要項／参加申込はこちらから！
https://www.ashisuto.co.jp/solution-studygroup/workgroups-apply/
一次締切 ： 2027年1月29日（金）
二次締切 ： 2027年2月19日（金）

分科会テーマ	対象	開催概要	活動ポイント
データ活用			
AIが成果を出すデータ整備	● データ活用、データマネジメントを推進する立場の方 ● DX・AI推進におけるデータ整備に関心のある方 ● 生成AIの回答品質や業務活用の向上を検討している方	生成AIを活用して業務の成果につなげるためには、必要なデータを集めるだけでなく、その意味や定義、関係性を生成AIが正しく理解・参照できる状態にすることが重要です。 本分科会では、業務上の目的や実現したい成果を起点に、どのようなデータをどのような状態に整備し、継続的に維持していくかを研究します。構造化・非構造化データを含め、ハルシネーションを抑制し、生成AIが正しい情報を正しい意味で参照・活用できるデータ整備の在り方を探ります。	・生成AIが正しく情報を参照・理解するためのデータ整備 ・データの意味・定義・関係性を整える方法 ・AIを活用したデータ整備・品質管理の効率化
セキュリティ			
AIエージェントのガバナンスとセキュリティ対策	● AIエージェントの利用ルールや管理について検討している方 ● AI活用におけるセキュリティやリスク管理に関心のある方	AIエージェントは、社内データやナレッジを参照するだけでなく、複数のシステムやツールと連携し、自律的に判断・実行する存在になりつつあります。一方で、自律的な判断や実行によって、想定外の動作や誤作動、情報漏えいなどのリスクが生じる懸念もあり、従来のユーザーやシステムを単位とした管理だけでは対応が難しくなる可能性があります。 本分科会では、AIにどこまでの権限を与え、人間が何をどの段階でチェックするのかを考えながら、AIエージェントを企業で安全に活用するためのガバナンスとセキュリティ対策を研究します。	・人間が何をチェック・承認するのか ・AIエージェントの情報・権限・利用を管理する仕組み ・AIエージェントの自律的処理に伴うリスクの整理

※具体的な研究内容や焦点は、分科会でご検討いただきます

西
日本

アシスト ソリューション研究会
2027年度 分科会募集テーマ

● 募集要項／参加申込はこちらから！
https://www.ashisuto.co.jp/solution-studygroup/workgroups-apply/
一次締切 ： 2027年1月29日（金）
二次締切 ： 2027年2月19日（金）

分科会テーマ	対象	開催概要	活動ポイント
技術探求			
AI駆動開発ライフサイクル（AI-DLC）の業務適用	● AI駆動開発の導入・展開を検討する立場の方 ● システム開発、設計、テスト、保守・運用に携わる方 ● プロジェクトマネージャー、品質管理、開発標準・人材育成を担当する方	AI駆動開発ライフサイクル（AI-DLC）をシステム開発業務に適用するには、単にコード生成ツールを導入するだけでなく、開発プロセス、役割、品質保証、組織の進め方を見直す必要があります。 本分科会では、要件定義から運用までの開発ライフサイクルを対象に、AI-DLCを活用するための前提条件、導入方法、成功要因を研究します。AIに任せる工程と人が担う判断・承認を整理し、急速に変化する開発スタイルの中で、品質と生産性を両立する実践的なモデルを検討します。	・開発工程へのAI活用と生産性向上 ・AIに任せる工程と人が確認するポイント ・AI駆動開発の品質を確保する仕組み
フィジカルAIで挑む現場革新	● 製造、物流、建設、保守など現場業務の改善に関心のある方 ● ロボット、IoT、センサー、エッジAIの活用を検討している方 ● AI推進、現場と技術部門の橋渡しを担う方	生成AIの進化に加え、センサーやカメラ、ロボットなどとAIを組み合わせ、現実の空間で認識・判断・動作するフィジカルAI『行動するAI』への期待が高まっています。一方で、現場への適用には、業務特性に応じたデータ収集、設備・システムとの接続、安全性、人と機械の役割分担、投資対効果などの課題があります。 本分科会では、フィジカルAIが現場の業務や働き方をどのように変えられるのかを整理し、適用可能なユースケース、導入ステップ、効果検証、安全に運用するための仕組みを研究します。	・フィジカルAIの適用が有効な現場業務・ユースケース ・安全性、信頼性、異常時対応、現場受容性の確保 ・小規模な実証から始める導入ステップと効果測定
組織／人材			
AIに任せる仕事、人が担う価値	● 全社でのAI活用を推進する立場の方 ● 経営企画、経営管理、人事・人材育成、研修企画の担当者 ● DX推進、現場部門の業務改革担当者	AIエージェントは、単に人の作業を効率化するだけでなく、複数の業務をつなぎ、判断や実行まで担う存在になりつつあります。その結果、これまで人が担ってきた業務の進め方や役割分担、人材に求められる能力は大きく変わる可能性があります。 本分科会では、AIエージェントの活用を前提に、どのような仕事をAIに任せ、どのような判断・責任・価値創出を人が担うべきかを研究します。業務の実行者から、目的設定や業務設計、AIへの指示、結果の評価、例外対応、最終判断を担う人材へと、人の役割が変化することを整理し、これから求められるスキル、役割、組織の在り方を検討します。各社の事例や具体的な業務を題材に、AIと人が協働する業務モデルと、人材育成・キャリア形成への示唆をまとめます。	・AIエージェントによって変化する業務と、人が担うべき判断・責任の整理 ・業務知識、専門性、基礎スキルをどのように維持・継承するか ・AI活用を前提とした人材育成、キャリア形成、評価の在り方

※具体的な研究内容や焦点は、分科会でご検討いただきます